

News letter

一般社団法人
日本精神保健看護学会
Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

第77号 | 平成28年
10月31日

(一社)日本精神保健看護学会事務局：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
TEL:03-5389-6254 FAX:03-3368-2822 E-mail:japmhn-post@bunken.co.jp HP:http://www.japmhn.jp

平成28年度本学会の取り組み

理事長 田上 美千佳
(東京医科歯科大学大学院)

2018年7月の神奈川県にある「津久井やまゆり園」の事件で、被害を受けられた皆様に、心からのお見舞いを申し上げ、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

本学会としましては、学会員の皆様とともに、関係機関と連携を図りながら、障害のある方の治療・ケアの充実とともに、地域社会で安全で安心できる生活の実現に向けての支援、また、障害のある人に対する地域社会での理解が深まるような活動に寄与して参りたいと存じます。

さて、本学会は昨年4月に法人化し、第2期理事会は就任2年目を迎えました。私は、精神保健看護学の発展と同時に実践の場の発展に貢献する学会であり続けたいと考えています。そのために、1,300人を超える会員の皆様との対話や交流を重視しながら、会員ひとりひとりが同じ専門領域の人々とのつながりの中で学びあい、成長しあうことを目指して、引き続き歩んでいきたいと思っています。

理事会では、一般社団法人である学会としての様々な整備に取り組んでおります。今年度の事業としましては、2016年7月2・3日に「こころと身体（からだ）と社会を紡ぐ精神保健看護」をメインテーマとした日本精神保健看護学会第26回学術集会・総会を開催いたしました。また、吉野淳一学術集會長（札幌医科大学 保健医療学部）を中心として2017年6月24・25日に北海道札幌市で開催の日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会の開催準備を進めています。

今年度は7回の理事会の開催と1回の代議員会を開催し、事業を円滑に遂行していく所存です。特に、今年度は、来年6月からの第3期代議員・役員を選出する選挙の年ですので、1月の選挙に向けた準備を進めております。本学会は代議員会が最高議決機関で、代議員選挙は、会員の皆様の中から議決権を持つ代表を選ぶ重要な選挙となります。どうぞ、会員の皆様の投票をお願いいたします。

事業につきましては、すでに、各委員会が中心となりまして、第25号学会誌の発行、本学会誌論文のJ-STAGEへの移行、教育活動としての山形県や三重県等での年4回の研修会の開催、年3回のニュースレターの発行、学会ホームページの運用とTwitter等のインターネットを媒体とした広報活動の継続、日本総合病院精神医学会との精神科リエゾンチーム講習会の開催、診療報酬・介護報酬改定の準備、看護系学会等社会保険連合への参加等の関連学会や団体と学術的な連携を行いながら様々な活動を行っております。今年度は、災害支援事業としまして、平成28年度熊本地震に関する災害支援の検討を進めてまいります。さらに、法人化した本学会の定款や諸規定の見直しを行う学会自己点検評価ワーキング活動を行っております。

本学会には専任の理事・監事はおりませんので、各役員が本務の仕事を行いながら、本学会の充実や発展に向けて日々、取り組んでおります。皆様からのご助言ならびに、今後一層のご理解とご協力をお願いいたします。

日本精神保健看護学会第26回学術集会・総会を終えて

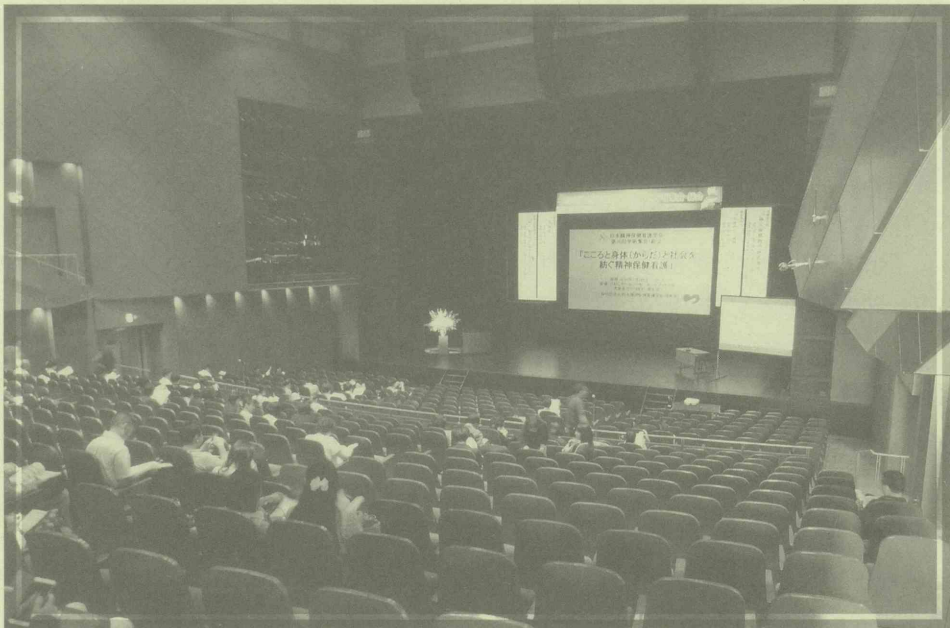
第26回学術集会・総会企画委員長兼実行委員長

甘 佐 京 子
(滋賀県立大学)

今年は類を見ない大変な猛暑が続き、ようやく秋の風に一息入れることができるようになりました。この暑い夏、7月2日・3日に滋賀県で「日本精神保健看護学会第26回学術集会・総会」を開催いたしました。梅雨時にもかかわらず、全国から900人余りの皆様が御参加いただき、盛況な中、幕を閉じることができましたこと深く感謝しております。

また、5月には、熊本大地震が起り、会員の皆様も被災されていることをお聞きして、胸が痛みました。それでも、当日には熊本をはじめ九州地区の会員の方もたくさん参加していただき、こちらが励まされる思いでした。改めて今回被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

思えば2年前に、滋賀県での学会開催が決まったことを耳にしたときに、看護系大学が3校しかない滋賀県で可能なのか？ 県名よりびわこの方が有名なこの滋賀県に人が集まるのか？ と、次々と脳裏に不安がよぎりました。その後、開催まで、半年を切った時、大会長辞任という大きなアクシデントが起り、正直、開催さえ危ぶまれる状況でした。実行委員長だけでなく、企画委員長を兼ねてこの学会を運営することはいろんな意味で、私には手に余るものでした。しかし、学会のテーマ「こころと身体と社会を紡ぐ精神保健看護」にあるように、まさに多くの方々の、熱意や力が紡がれることで、この学会が何とかひとつの形を成すことができました。テーマのとおり、学会会場のあちらこちらで、様々な糸が、ここにも身体にも大切な社会での関係性を紡いでくれました。ひとつのエピソードですが、作業所の方に昼食用のパンを販売に来ていただいたのですが、天候も良く会場内で召し上がる人が予想以上に少なく、多くのパンが売れ残りそうになりました。それに気がついた、学会スタッフが、まず、すばやく販売場所を会場入り口付近に移し、さらに田上理事長自らパンを売りさばき、なんとまさかの完売！ その後作業所の方からも、「よく売れて忙しかったよ〜！」と利用者さんが笑顔で帰ってきましたとの報告もいただきました。そうそう「全部売れたわ！」と誇らしげに事務局に戻ってきた田上理事長の笑顔も素敵でしたよ。



学会開催まで1ヶ月を切った頃は、本当にバタバタしていて、ところどころ記憶がありません。それでも何とか開催し、無事終了出来たのは、会長代行をお引き受けくださった田上美千佳理事長をはじめ、御協力いただいた理事の先生方、そして何よりもボーっとしている私を必死で支えてくださった企画委員の先生方のお陰だと思っております。

さて最後に、御参加いただいた皆様の御感想はいかがでしょう。例年アンケートの回収率は少ないのですが、少ないながら、「ボランティアの学生さんが丁寧でとても良い感じでした」「びわ湖の景色に癒されました」などのお褒めの言葉や、「口演会場が狭かった」「駅から遠い！」などの御意見に、一喜一憂しながらその結果に目を通しました。ワークショップの満足度が非常に高く、これはこの学会ならではのものだかと改めて思いました。

秋風と共に、あの怒涛の日々は去っていきました。今となっては、楽しかったことや、うれしかったことしか覚えていない状況です。人間はゲンキンなものだなあとと思いますが、忘れることで生きていくことができるとしたら、これもまた大切なこころの機能ですよ。

今は、次回の札幌大会を、ほっこりした気持ちで楽しみにしております。皆様に、再会できることを期待して……。



第26回学術集会に参加して

路 川 達阿起
(自治医科大学)

2016年7月2日、3日に滋賀県大津市で行われた日本精神保健看護学会 第26回学術集会・総会に参加させていただきました。

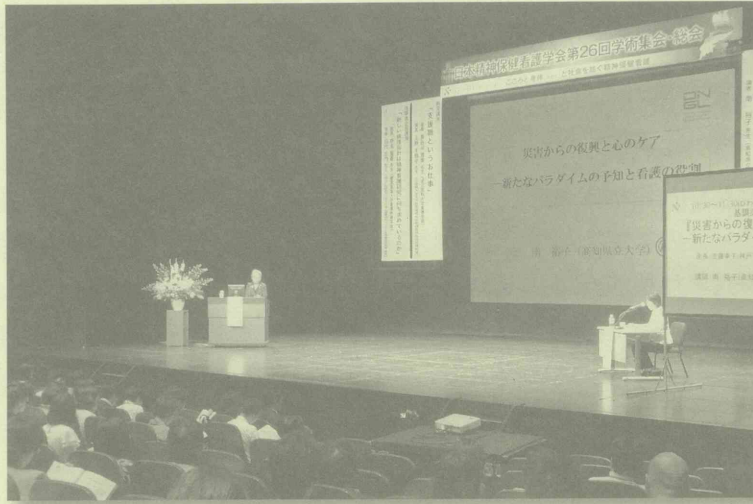
大会テーマは「こころと身体（からだ）と社会を紡ぐ精神保健看護」ということでしたが、それを学び、考えるための貴重な機会となりました。

基調講演でお話をいただいた南 裕子先生は「災害からの復興と心のケア」というテーマでお話しされました。阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などの実例を交えながら自然災害の中で被害に遭われた人々がどのような状況に置かれているのか、そしてその人々に対してどのように関わっていけばよいのか。復旧・復興期の「心のケア」とはいったい何が必要なのかといった課題を分かりやすくまとめていただきました。

また、教育講演では上野 千鶴子先生から「支援職というお仕事」というテーマでお話しいただきました。先生自身の体験を交えながら現代社会における精神障害者の諸症状とそれに対して求められる支援とは何か、支援職とはどのようなことを成すべきかについて終始、納得と共感を得ながら拝聴させていただきました。

市民公開講座では、比叡山延暦寺より大阿闍梨 藤波源信師をお招きし「修行と生活～千日回峰行を中心に～」というテーマでお話しいただきました。千日回峰行という日常からはかけ離れた修行を終えた経験の中から、日々の暮らしの中で自分らしさやあるがままの自分を見つめ、心の安寧を保つ方法を学ばせていただきました。

一般演題では多種多様なポスター掲示がされており、様々な立場の視点から精神障がい者やそれを支援するスタッフ達がどのような現状におかれているのか、どのように関わっていくべきなのかを考えさせられました。



本学術集会を通して、大会テーマである「こころと身体と社会を紡ぐ精神保健看護」の重要性を改めて感じることができました。これから益々、精神障がい者の地域移行が進んで行くことは明らかとなっています。そして、精神障がい者がその人らしく地域で生活していくためには支援する側が世に求められていることをしっかりと把握し、実践していくことが必要となってきます。今回、本学術集会に参加し、様々な立場から考え、精神保健看護に関する学びを深めていくことができました。これからも積極的にこのような機会に参加し自分なりの支援を考えていきたいと考えます。

最後に、このような貴重な機会を設けてくださった本学会運営に尽力された会長をはじめスタッフの皆様方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

シンポジウム

「こころと身体(からだ)と社会を紡ぐ精神保健看護」に参加して

田 巻 宏 之

(医療法人社団碧水會長谷川病院 看護部長)

日本一大きな湖である琵琶湖の湖畔にあるびわ湖ホールで、第26回日本精神保健看護学会がH28年7月2日3日に開催された。今回の学会のテーマは「こころと身体(からだ)と社会を紡ぐ精神保健看護」というテーマである。学会二日目のシンポジウムでは座長の熊本大学宇佐美しおり先生のと きばきとした進行のもと、学会テーマにふさわしい独自の高度実践看護を実践されている3名の先生の活動発表があった。

がん看護専門看護師の草分けであられる京都大学大学院教授の田村恵子先生は、2008年NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」にも出演され、ホスピスでのがん患者への看護の道標を作られた方である。その田村先生が、後進の指導の必要性から大学で教鞭をとられる傍ら、がん患者さんたちのために地域での支援を開始した。それが「ともいき京都」である。紙面の都合上詳細は語れないが、患者さんやそのご家族の語り、そして医療者の傾聴、時間をかけた対話を大切にされているところが非常に感銘を覚えた。

二人目のシンポジストである岡美千代先生は、現在群馬大学の教授で長年看護大学での教鞭と研究を継続され筑波大学大学院で医学博士も取得されている方である。透析患者さんとの長年に渡る深い対話をもとに、EASEプログラムを開発し実践されており、今回の話題提供も透析看護の話であった。いきなり尾崎豊の絶

唱を会場に流された時にはどういう話になるのかかなり面食らったが、医療者の指示を聞かず多訴で問題と思われがちな透析患者の心の叫びを会場にお伝えしようとしていたと分り、未熟な私は時間が経って先生の深い意図が腑に落ちた。

田村先生も岡先生も何より患者の苦悩を真正面から受け止め、患者さんの発する言葉を聞き流すことなく本当に大事にされ、人生を生きる人として患者さんを理解していかれた。その上で必要な支援を模索していく中で、周囲の多くのリソースを巧みにつなぎ、一途に患者さんの自己決定の支援とセルフケアの維持向上に貢献するための道を切り開かれていた。

3人目のシンポジストである木村里美先生は社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院のリエゾンCNSである。この病院はドクターヘリ・ドクターカーを有し年間約6,000以上の救急車を受ける滋賀県随一の3次救急指定病院である。その県内唯一の救命救急センターに運ばれてくる患者の中に、一定割合自傷・自殺企図患者が含まれている。救急に携わる医師や看護師は、命を救おうと必死に診療に当たるが、自らを傷つけ死を望む患者に対しては複雑な心境になるのは当然である。しかしそこに果敢に取り組んだ木村先生の活動を聞くことができた。非常に過酷な救急センターという現場で働く医師、看護師が木村先生の呼びかけに応じ、自傷・自殺未遂の患者の理解とその時にできる対応を探索し、学習し、システム化していった軌跡は本当に感動を覚えた。

筆者は現在東京の三鷹市にある長谷川病院という精神科の民間病院で看護部長をしているが、当院は現在東京都から精神身体合併症救急連携事業を受託しており、地域の一般科病院の看護責任者と連携会議を定期的開催している。その会議では、滋賀県病院と同じように救急車で運ばれてくる患者の中に自傷・自殺未遂の患者が一定割合いるが非常に対応に苦慮していると聞いていた。連携事業の一環で、地域の一般科看護師向けの精神科対応向上研修の企画をする立場にある私は、木村先生のお話を聞き、シンポジウム終了後すぐに先生にお声をかけさせていただき研修の講師の依頼をさせていただいた。東京の一般科病院の看護師の皆様にも木村先生のお話は必ず参考になるものと確信している。

今回の学会及びシンポジウムでは、この紙面では書ききれないくらいの学びと刺激をいただいた。この場を作るために、本学会の運営に尽力された学会理事長はじめスタッフの皆様から感謝申し上げます。



理事会・代議員会・総会報告

第2期理事会総務委員長 江波戸 和子
(杏林大学)

平成28年6月18日に東京医科歯科大学において、平成28年度第2回理事会、および第1回代議員会を開催し、以下の内容が議決しました。

1. 平成27年度事業報告および収支決算報告
 2. 監査報告
 3. 平成28年度事業計画および予算案
 4. 役員等の辞任による補欠役員の選出について
- 平成28年度の事業計画では、4月に熊本市を中心に甚大な被害をもたらした熊本地震への「災害支援事業」を新規単年度事業として取り組むことが加わりました。

役員等の辞任による補欠役員の選出については、瀧川薫理事より、理事および代議員の辞任届が提出されたため、その受領に伴い、残任期間の補欠理事を選出しないことが可決されました。また残任期間の補欠代議員の選出につき、近畿地区より神戸女子大学の玉木敦子氏が新代議員として選出されることが可決されました。

さらに7月1日には、ピアザ淡海において平成28年度第3回理事会、7月2日には総会が開催されました。総会では、平成27年度の理事会および各委員

会からの活動報告、収支決算と監査報告、平成28年度の理事会・代議員会の開催、第3期代議員・役員選挙について報告されました。

引き続き7月23日には、平成28年度第4回理事会が東京医科歯科大学で開催されました。第26回学術集会（滋賀）の報告と共に、第27回学術集会（札幌）についても準備を進めております。また、継続的な倫理教育や投稿規定の見直しについて審議を行いました。今後は、定款の変更や諸規定の変更など、法人としての社会的責任を担った学会として、課題の整備を行っていくことにしています。



自己点検評価に関する活動について

副理事長 永井 優子
(自治医科大学)

本学会は、一般社団法人に移行した後の「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の一部改正」を受けて、定款改正が必要になっている。定款改正後の登記費用も掛かることから、現在、本学会定款および定款施行細則（現行：運営細則）であわせて改正すべき事項について、次年度の代議員総会に向けて検討している。たとえば予算案の承認の代議員会から理事会への変更、役員解任要件や学術集會長の代行は理事長とすること、委員会規程の整備、基金取扱規程などにより、本学会の運営を円滑に、かつ公正・公明に行うように整備する予定である。

また、現在websiteの入会の要件について、会員資格基準として明確にすること、利益相反指針および利益相反指

針細則の整備、本学会における研究活動に係る不正行為への対応や行動規範の設定やプライバシーポリシーの更新、社会貢献に関すること等についても鋭意検討中である。

さらに、マイページを活用して、現在の会員状況や若手研究者の支援など、本学会への要望等の調査を今年度中に行うことを準備している。

今期、残された役員任期が終了するまでの間に、できる限りの本学会の基盤整備に取り組むべく、理事会が一丸となって努力しているが、調査も含めて会員の皆様からのご意見ご要望があれば、事務局へメールにてお知らせいただきたく、ご協力をお願いしたい。

教育活動委員会報告

教育活動委員 安 保 寛 明
(山形県立保健医療大学)

●学術集会企画講演

第26回学術集会における理事会企画講演として、「新しい倫理指針は精神看護研究に何を求めているのか」と題して国立がん研究センターの田代志門先生をお招きした講演を行いました。2014年に告示された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を基に精神看護研究に関する論点を踏まえたご講演で、同意と自発性、侵襲と介入に対する考え方などが紹介されました。委員会へ寄せられた反響も大きく、ニーズが高い講演だったのではないかと感じています。

●教育活動委員会企画研修

今年度も教育活動委員会では研修会を予定しています。今年度は「精神保健看護の多様な展開」と題して山形、三重、東京で開催の予定です。今号では山形開催ぶんの報告と三重開催ぶんの告知をいたします。

なお、会員は無料で参加できます。①氏名、②所属、③会員または非会員を明記の上、事務局メールアドレスまでお申し込みください。

【山形開催報告】

「精神看護専門看護師の多様な活動～総合病院・精神科専門機関での活躍のこれまでとこれから～」と題して9月22日に開催されました。学生をあわせて36名の参加がありました。リエゾン精神専門看護師として福嶋好重先生（横浜市立市民病院）、精神看護専門看護師として矢内里英先生（埼玉県立精神医療センター）に、大学院での教育課程を修了した立場から佐藤充先生（山形県立こころの医療センター）に、それぞれの立場から事例や物語を交えた講話をいただきました。

来場者との応答では、組織内での地位確立や組織横断事例、専門看護師自身の連携や援助関係に関する活発な意見交換がありました。また、東北地方で専門看

護師に関するセミナーが開催されるケースが稀少であるためか、アンケートにはこのような機会を待っていた旨の記述がみられました。

ご参加の皆様、ご関心を寄せて下さった皆様に感謝します。

●三重開催告知●

題目：子どもたちにむけた精神保健看護の取り組み
～予防活動および家族支援～

シンポジスト

1. 前川早苗（三重県立こころの医療センター精神看護専門看護師）
「精神保健に関する学校への出前授業の取り組みについて」
2. 甘佐京子
（滋賀県立大学人間看護学部教授・学部長）
「同胞からみた精神疾患の捉え方と親による同胞サポート」
3. 土田幸子（鈴鹿医療科学大学看護学部准教授）
「精神障害の親を持つ子どもへの理解と支援
～健全な成長を促すために～」

司会：長谷川雅美

（金沢医科大学看護学部教授・学部長）

日時：2016年11月26日（土）13時～15時

場所：三重大学医学部看護学科新医学棟
3階第一講義室

〈参加申し込み〉

事務局アドレス（三重開催ぶん）：

japmhn.edu@gmail.com

申し込み期間：

10/15（土）～11/22（火）（先着100名）

選挙管理委員会より代議員選挙のお知らせ

選挙管理委員長 小林 信
(東京医科大学)

日本精神保健看護学会代議員選挙を定款第5条および代議員・役員選出に関する規程に基づき、平成29年1月に実施いたします。代議員選挙の投票用紙は、各正会員の入会申込書で連絡先として指定している住所に平成29年1月上旬に学会事務所から直接お送りしますので、送付される用紙を使用し、1月31日（火）までに投票してください。

なお、選挙人および被選挙人は、選挙人名簿作成日（平成28年9月30日）現在、平成27年度までの会費を納入した正会員と規定されております。

選挙人におかれましては、投票率の向上に向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。



ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただき、ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からのお原稿をお待ちしております。

*News
letter*

編集後記

▼発行が非常に遅れたことをお詫びいたします。

所属が変わりますと、仕事を行うシステムが変わり、四苦八苦しております。同時にウェブメールが変わり、現在のところ新しいメールが受けられない状況の中での発行準備をすすめることになりました。今しばらくこの状態の解消に時間がかかりそうですが、委員の協力を得て、発行にたどりつけました。

文責：編集委員長 岩瀬信夫

広報委員会 広報委員長：岩瀬 信夫 広報委員：安保 寛明、中戸川早苗、糟谷久美子

(お問い合わせ先) メールアドレス：si11161@jrchon.ac.jp

TEL：0829-20-2863